

2019年9月20日発行

第23号

◇ 運営の理念 ◇

いつも明るく
物事を正しくわきまを
そして人と仲よくできる
子どもを育てる事
理念とします

学園通信

杉の子

発行

社会福祉法人

光明会杉並学園

〒168-0081 東京都杉並区宮前3-10-8

TEL 03-3334-4941

FAX 03-3334-7905

HP アドレス

http://sugigaku.web.fc2.com

たくさんのご支援に支えられて

施設長 麻生 信也

ひと昔前に比べて、児童養護施設で暮らす子どもたちの暮らしは、一般家庭のそれに近づいてきました。学用品、洋服などは必要十分に用意できるまでになっていきます。その分、ものを大切に使うこと、今ある環境に感謝することを子どもたちに伝えることが大切だと考えています。子どもたちは、今ある環境に慣れてしまうと、足りないもの、さらに欲しいものへと関心が移っていきます。施設で暮らす子どもの中には、それが顕著に表れる子どももいます。ものだけでなく、人とのかわりも含めて、我慢することが苦手で、欲しいものすべてを今すぐ手に入れたらと思う。そして、一方的にしつこく要求し、思うようにならないと暴言やときに暴力に訴えることもあります。

幼いころに、自分の気持ちを十分に受け入れてもらった、わかってもらえたという実感のないままに育つと、交渉したり、ときには要求することを諦めたりなど、その場の状況や相手の事情を考慮することが苦手になるようです。職員が子どもに、相手の気持ちを考えなさい、相手の立場に立って考えなさい

いと説く前に、子どもたちが実感を持って、私の(僕の)気持ちわかってもらえた、あの人な気持ちわかってもらえたら、あんなに感じてもらうことが必要となります。日々の暮らしを通して子どもと職員が心を通わせることができるように工夫を重ねたい。そして、近い将来には思いやりのある心優しい子どもに育ってくださることを信じています。

子どもとの関係づくりは、日に深まるというわけにはいかず、一進一退を繰り返します。成果が見えずに思い悩むこともあります。そんな時、学校の先生、地域の方、長きにわたるご支援いただいている方、ブログを通して学園と出会っていただいた方、こうした方々のご支援に、勇気をいただき、励まされています。職員一同、心より感謝申し上げます。



伊豆高原 (わくわくキャンプ)

森の子ホーム夏レク

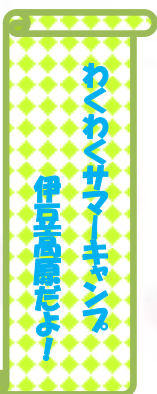
森の子ホームの夏レクは、「日帰りで行けるいろいろなところへ出かけたい!」という子どもたちの希望で浦安万華鏡温泉や東京ドーム・横浜中華街などに行きました。浦安万華鏡温泉では女の子2名が参加し、色々な温泉めぐりをして楽しみました。足湯のドクターフィッシュ【魚】が足元に寄ってくる。最初は怖がっていましたが、スツップのお姉さんに優しく声をかけられてチャレンジすることができました。



ホーム全員参加では横浜中華街に行きました。子どもたちは事前にパソコンで電車の経路や行ってみたいお店を調べて一日のスケジュールを組みました。可愛い雑貨屋さんを巡

ってお土産を悩みながら選び、お目当ての食べ歩きも楽しみました。杏仁ソフトクリームはあまりの暑さであつという間に溶けてしまい、みんな慌てて「垂れる、垂れる」と言いながら食べていました。沢山食べた後ですが、食欲旺盛な子どもたちは満足しません!お待ちかねのお昼ご飯は始めての「これぞ!中華」という円卓でのバイキング。初めて見る「回るテーブル」に大興奮の子どもたちは目を輝かせながら手を伸ばしていました。美味しい中華料理をお腹いっぱい頂きました。

最後に手相占いをしました。占い師さんの説明を食い入るように真剣に聞いていました。



今年も、NPO法人国際自然大学の皆さんと夏のキャンプに行ってきました。今回は大田区の伊豆高原学園に宿泊。到着後、城ヶ崎海岸を散策し、足場の悪い潮溜まりまでの道のりを、幼児さんたちも、国際自然大学の皆さんに励まされて頑張っていました。波の侵食によって出来たくぼみの潮溜まりの海中生物を観察し、日

常では味わえない自然に触れて、子どもたちは大喜びで興味津々でした。夜のキャンドルフアイヤーでは、眠い目をこすりながらも、楽しい夜を過ごしました。



翌日の昼食はドラム缶ピザ作り。各自仕事分担をし、みんなで協力し美味しいピザを焼き上げました。色々な作業を通して、みんなで出来たことを共感し合える体験が、子どもたちの生活にも反映されることと思います。今年も貴重な楽しい思い出が、一つ増えました。

ドラム缶ピザ

